

環境経済・政策学（7）

1. 直接規制（CAC）と市場的手法（MBIs）

（1）様々な排出権取引制度

SOx

USA: 1990 CAA Amendments, CAP Program for SO₂ (EPA Acid Rain Program)

Phase I (1995-2000): 110 Electric power plants、870 万 t (1990) から 490 万 t (1999)

Phase II (2000-): about 1,000 Electric power plants、1120 万 t (2000) から 940 万 t (2006)

NOx CAP Program (2005-2009)

UNFCCC (1992): Kyoto Protocol (1997, enacted 2005): Kyoto flexible mechanism

Emission Trading: ET

Joint Implementation: JI

Clean Development Mechanism: CDM

CO₂ : Cap and Trade System

EU-ETS I (2005-2007) 、EU-ETS II (2008-2012) 、EU-ETSIII (2013-2020)

Japan: JETS (2008)

Tokyo Metropolitan Government: ETS I (2010-2014), ETS II (2015-2019), 1,300 plants

ICAP (International Carbon Action Partnership): EU, USA (States 2009), Canada (2010), NZ (2008), Australia (2011)

（2）市場的手法（MBIs）の静学的効率性（社会的汚染削減費用の最小化）

ピグー税と取引費用（Transaction Cost）

ピグー税とボーモル・オーツ税：直接規制の補完政策としての環境税

排出権取引制度の効率性：汚染物質の性格（局所性と地球規模）と市場の大きさ、取引規制

（3）直接規制（CAC）と市場的手法（MBIs）と動学的効率性

排出基準（パフォーマンス基準）のCACにおいては動学的効率性が働く可能性がある。

2. 自主的手法（VA）：第3の途

自主的取り組みとは、企業に法規制の範囲を超えて自ら環境改善を図らせるよう仕組みである。自主的取り組みは、第三者の関わり方によって、次の4つに類型化できる。公的自主協定（public voluntary schemes）、自主協定（negotiated agreements）、片務的公約（unilateral commitments）、民間協定（private agreements）である。

・ Pollution control agreement: local governments and private company

1964 Yokohama , 1969 Tokyo

32,177 agreements (2003)

- Certification: ISO14000: 1996, Creation of EMS: Environmental Management System⇒CSR
Japan 18,869,
World 88,800 (2005)
- Environment Audit/ Environmental Report
- CSR (corporate Social responsibility); SR (social Responsibility), ISO26000
環境省『環境報告（書）ガイドライン』（2004年3月）
経済産業省・環境報告書プラザ <http://www.ecosearch.jp/index.html>
外部機能①社会に対する情報開示機能
②ステークホルダーへの情報提供機能
③社会へのプレッジ・アンド・レビュー（誓約と評価）による環境活動推進機能
内部機能①環境活動のPDCA化
②経営者や従業員の意識向上と行動促進
- Eco-labeling; 1989 Eco-mark (ISO14020, ISO14024); 47 categories, 4,600 brands

ISOにおける名称及び該当規格	特徴	内容
タイプ I (ISO14024) “第三者認証”	第三者認証による環境ラベル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者実施機関によって運営 ・ 製品分類と判定基準を実施機関が決める ・ 事業者の申請に応じて審査して、マーク使用を認可
タイプ II (ISO14021) “自己宣言”	事業者の自己宣言による環境主張	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製品における環境改善を市場に対して主張する ・ 宣伝広告にも適用される ・ 第三者による判断は入らない
タイプ III (ISO14025) “環境情報表示”	製品の環境負荷の定量的データの表示	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合格・不合格の判断はしない ・ 定量的データのみ表示 ・ 判断は購買者に任される

(出所) 環境省 <http://www.env.go.jp/policy/hozen/green/ecolabel/world/poland.html>

3. 日程

第1部 環境政策の基本的類型と環境問題

1. イントロダクション（環境問題と環境政策：大気汚染対策） 4/06
2. 環境政策の類型：直接規制 4/13、4/20
3. 環境政策の類型：市場的手法 4/27、5/11、5/18
4. 環境政策の類型：自主的手法 5/25
5. 環境問題と環境政策：地球環境問題 6/01

第2部 環境政策の評価

6. 費用便益分析 6/08、6/15
7. 環境の経済的評価 6/22（休講予定？）、6/29
8. 環境政策の評価基準と評価方法 7/06、7/13

第3部 まとめ

9. まとめ・試験 7/20、7/27(補講予定?)